

令和7年度の教育活動等に対する学校評価書

令和8年2月12日

学校法人大雄学園青島こども園長
学校法人大雄学園学校関係者評価委員長

池田 文昭
牧野 好洋

- 1 園の教育目標 『心豊かな人間の育成』
- 2 本年度の重点目標 「がんばる子 やさしい子」
- 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	園としての成果や課題、改善策	評価点	意見
教育成果	親や子どもは園での教育活動に満足している①	A	○昨年度の藤枝市私立幼稚園・こども園協会の公開保育以来、子どもの主体性を育むための保育を目指し、職員一同がベクトルを同じくして実践を継続できている。 ○子どものおもいや考えを大切にしているため、子どもが達成感を得ることができているように思う。日々の保育に真摯に取り組んでいることは、保護者のアンケート結果からも見て取れる。 ○子どものおもいを大切に主体性を育む保育の中で、小学校入学までに確実に身につけなければならない技能や生活習慣も多い。日々の生活の中でその機会を確実に設定できるように更に努め小学校につなげていきたい。	A	○保護者同士で話をすると、多くの保護者が園の活動に満足していること、職員を頼りにしていることや、保護者と園との信頼関係が築けていることがうかがえる。 ○普段の保育活動はもちろん行事も一人一人の主体性が発揮されるように工夫され、充実していた。 ○子どもに「園の生活で何が楽しかった?」と尋ねた時、『劇ごっこ』と応えると予想した「楽しかったことはいっぱいある。」とのこと。園で毎日楽しく過ごしていることがわかり、結果もそうだがそこまでの過程を大事にしていることもわかる。
	職員は親や子どもに信頼されている②				
教育課程	教育目標に沿った教育③	A	○職員が教育目標や重点目標の達成を目指し、毎日の主活動、行事等では子どもを真ん中にして実践を積み重ねた。 ○保護者の声に耳を傾け、柔軟な教育課程の実施に努め、ゆったりとした保育環境の中で、子どもの良さが発揮できる教育課程の実施に努めた。 ○特性のある子どもについては、その子の発達の可能性を信じ、職員全体でその子にとってのより良い保育環境作りを努めると共に、関連機関とも連携し、より良い成長を促すことができた。	A	○子ども達の年齢や、一人一人の発達段階の違いをつかみ、しっかりと教育課程を組んでくれていること、職員が子ども達の学びを大切にされていることが行事等を参観させてもらうと理解できる。 ○園を卒園してからのことをイメージしながら保育していることもうかがえる。小学校として入学してくる1年生を「何でも世話をしなければならぬ子」というイメージから「挑戦の機会を設定すれば何でもできる可能性がある子」に見方を変えていかなければならない。
	一人一人を大切にし、発達年齢に応じた保育⑤				
	園行事⑩				
教育環境	保育室、園庭、遊具等、園での教育環境④	A	○月1回の安全点検時はもちろん、普段から保育室内外の環境整備に努め、少しでも危険を感じるものがあれば即時の対応に努めた。 ○安全対策部会議からの発信や随時のチャットによるヒヤリハット情報の周知により、職員の安全な環境作りへ意欲と実践、危機管理意識は確実に高まっている。 ○月1回の防災訓練は充実度が上がった。園庭への避難だけでなく、宗乗寺への避難、サンライフ藤枝への避難経路確認、簡易トイレ設置、発電機操作、防災食確認、全園児の2階への避難、子どもによる消火訓練体験等、多くの災害の状況を想定して訓練し、子どもと職員の防災意識の向上につなげている。 ○今後子どもには遊びの中での危険察知能力を育てる手立てを考えていきたい。	A	○ヒヤリハットの情報をいち早く共有したり、話題にしたりして子どもの怪我の防止に努めている。 ○防災訓練も毎月行うとなるとマンネリ化も危惧するが、仮設トイレの設置や子どもによる消火訓練等様々な工夫を実践したり、暑いときは日陰を選んで避難させたり丁寧にされている。 ○子どもが怪我をするのは当たり前であり、怪我を未然に防ぐことも当然大事なことである。過保護になりすぎないように、行動を通して危険察知能力を育ててほしい。
	安全な環境について配慮⑧				
保護者対応	親や子どもに信頼されている②	B	○保護者評価において『とても満足』『満足』の回答が昨年度より5%増えた。更に一昨年度と比較すると『とても満足』の回答が8%上昇した。職員の子どもに対する誠実かつ温かな対応が保護者に届いていることを感じる。 ○ホームページにその日の子ども様子をできる限り掲載している。教育部では満足の声が多いが、保育部の保護者からは掲載を増やして欲しいと期待する声がある。一方で保育部では毎日保護者と話す時間がある程度とれる反面、教育部では顔を合わせて話す時間が十分ではないという現実もある。子育て相談日等を気軽に利用してもらうなど、開かれた園の運営を図っていきたい。	A	○迎える時、担任も級外も子どもその日の様子を丁寧に伝えてくれ、チームで子どもを育ててくれていることがわかる。 ○ホームページにもその日の様子を写真で掲載してくれているので、園の様子がよくわかる。しかし、ホームページを見ていない人もいるので、更に幅広く見てもらえるように手立てをうったらよいのではないかと。 ○賛否あると思うが、今年度の成道会、涅槃会への保護者の参加を募ったように、普段の様子を参観できる機会を増やしてもいいのではないかと。
	子どもの様子を丁寧に伝えている⑥				
連携	家庭や地域と連携した教育活動を行っている⑦	B	○青島東小学校の職員が運動会や劇ごっこの参観に訪れ、子ども達の様子を参観した。本園職員も青島東小学校の運動会を参観したり、授業も見せていただいたりして、それぞれが授業や保育の展開に生かそうとする意識を持った。また2月20日には青島東小学校1年生との交流も行う予定である。更に小中接続を意識した交流を活発にする必要がある。 ○毎週のようにいちごクラブに通ってくださる方がいる。声かけを精力的に行い、おじさんと親御さんと園との楽しい時間を共有し、青島こども園でのひとときを更に充実させて欲しいと願う。 ○地域の方の力を借りながらやさしい栽培、お茶会、味噌づくり、太鼓指導などは例年通り継続し、子ども達の心の成長を担っている。園以外の地域の方々に学ぶことは、すぐに成果として現れないが、必ずやこれからの人生に豊かな影響を与えてくれるであろう。	B	○園の子ども達が地域の祭典の子ども神輿や屋台の引き回しに参加してくれる。こうしたかわりは文化の伝承の担い手としての期待もできることである。 ○園の活動に地域の方々が入ってくれる。小さいときから地域とのかかわりをもつことは素晴らしい。小さい頃から、地域の人の顔を知ることが大切なことであり、今後よりかかわりを増やしてほしい。 ○小学校との交流については更に充実を図るべきである。子ども同士の交流だけでなく小学校の教員が年長児に向けて小学校を紹介する話をする時間を設定するつもりである。
食育	給食や栽培など、食育が適切に行われている⑨	A	○トマトやナス、さつまいも栽培を通し、植物の成長の喜びやそれを食することの有り難みを感じることができた。またミニミニクッキングや魚の解体ショー、味噌づくり等、体験的な食育活動を実施し、園児の食に対する関心や理解が深まったと共に食することへの意欲につなげた。 ○園での食育活動について、親御さんにも情報を発信したり、保護者との連絡を密にしたりして、更に多くの家庭の食生活への意識向上と、食育の実践に寄与していきたい。	A	○栽培活動を通して、土に触れること、土を耕すことで自然の素晴らしさや働くことの大変さを知ることができることはもちろん、土の中の様子も知ることもできる。また暑い中での水かけを通して農家の苦勞も知ることができ、心も育つことであろう。是非続けて子どもの心も耕してほしい。 ○子どもの育ちやそれに必要な栄養面のことも配慮し、自園給食をしていることはとてもいいことである。ふれあいを大事にすることも含めて、食育で子ども達を健全に育てていただきたい。

評価点 A 十分に成果があった B 成果があった C 少し成果があった D 成果がなかった